国道418号・上矢作町達原

矢作ダム湖上流の沢ぬけ（旭町牛地）

松ヶ沢・上矢作町紺屋井

岡崎市付近の浸水状況 矢作川右岸19k付近内水浸水

旭町小渡付近の矢作川右岸

矢作ダム湖を覆う流木（串

平成 12 年 10 月建設省等が発行したいわゆる東海豪雨における矢作川の被害状況報告の冊子から抜粋

岐阜新聞　14，5，19

2002年(平成14年)5月19日　日曜日

Sunday Column サンデーコラム

治水につながる治山活動

丸山　幸太郎
岐阜女子大教授

取り組みは国民的命題

「みどりの日」前後からの連休に、幾度か山野の新緑に惹(ひ)かれて、川々の上流の緑陰や清冽(れつ)な川瀬に身を置き、生きている実感や喜びにひたることができた。

その時、強く思い出されたのが、この三月までNHKの朝の連続ドラマ「ほんまもん」で印象づけられた熊野の山並みと清流だった。あの深い緑の森林は、林野庁や山の持ち主たちにより、低材価の苦境の中で営々として間伐・枝切りなどの育林努力がなされて成り立っているのだと、ドラマは物語っていた。

こうして、目に優しく、疲れた心を癒してくれる目の前の山々をよく見ると、自動車道や別荘地造成、観光施設建設などで伐木され、芝生地や花畑化した山、土砂崩れのが目に付く。普段は平穏だが、大雨の季節が来たら「これでよいのか」という思いに駆られた。

平成十二年九月十一日から十二日にかけ、名古屋市を中心とする東海地方は、二日間で六〇〇ミリ近い記録的な集中豪雨に見舞われた。庄内川および矢作川流域などで死者十人、負傷者九十八人、家屋全・半壊合わせ百三十八人、の山林の保護について、もっと目が向けられるべきである、との思いを当時から持ち続けている。

庄内川も矢作川も上流は岐阜県にあり、東海豪雨時の大量出水で上流部は荒れた。

最大集中降雨から一夜明けられた十二日朝の矢作川流域などでは、すでに川上流のはんらん状況を撮影したビデオが手元にある。水害から数カ月たち、道路復旧した上矢作町を訪れて、そのビデオを見せられた。大木や橋を流し、田畑、道路をえぐり取り、電柱を押し倒す巨大な奔流のすさまじさに強い衝撃を受けた。

川は怒れる山の神の命を受け、大竜となって荒れ狂い、人間に反省を求めているようである。「治山治水」という、官民ともに負うべき歴史的重要命題が、文字通り一貫性をもって取り組まれてきたのか、と問われているのである。

甚大な被害を受けた上流部の山村民のみが負担しきれるものではない。流域全体の問題、いや、むしろ国民的命題として新「治山」運動が展開されるべきであろう。それは一部では、すでに着手されているが、次のような諸点の実行である。

❶間伐材の有効活用❷和材の積極的購入活用❸ケヤキ、トチ、カシ、ナラ、ブナ、ホオなど広葉落葉木の植林と保護の奉仕活動❹都市と過疎化の進む山村との人の環流化を図り、棚田復活などの里山づくり―。

すなわち、いずれも都会人が実行できることである。癒しや元気回復を求めて山に向かうとともに、治山につながる治山活動をみんなで展開する道を開いていこうではないか。

誠に的を得た取り組みであるが、「治山」は上流部の山村民のみが負担しきれるものではない。

まるやま・こうたろう　1937年8月7日恵那市生まれ。岐阜大史学科卒。専門は日本史。岐阜県、岐阜市、揖斐川町、南濃町など県市町村史の編集執筆に加わる。岐阜女子大地域文化研究所長、同大観光文化学科教授。著書に「幕藩体制解体過程の農村」「ぬくもりの岐阜地名」「古田織部」など。自宅は揖斐郡池田町。